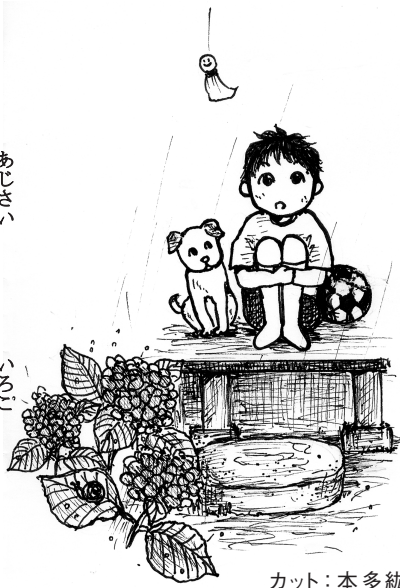


第341号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



かんがふか 考え深めよう



カット：本多紘子

梅雨入りも間近になり、心光寺の庭の紫陽花の花も色濃くなってきました。梅雨にはいると洗濯物が乾かず、赤ちゃんや小さなお子様がいる家庭は大変ですね。皆様方いかがお過ごしでしょうか。

4月の後半から5月の初めはゴールデン・ウィークとして、長い休日が続きましたが、ハイキングや海外旅行やスポーツを楽しまれた方もあり、反対にデパートやスーパーマーケットや旅館等のサービス業にお勤めの方は接客業務に大変なことだったでしょう。

働き過ぎは良くないということで、欧米なみに休日を増やそうとしたのは日本のバブル経済時代の昭和60年くらいかなと思いますが、突然の長期休暇を与えられた学生も社会人も戸惑う人が多かったようです。今でこそ、『五月病』という言葉が聞かれなくなりましたが、休日明けに学校や会社を休む人が増え、学校を退学したり、会社を辞める若者が多く、『五月病』という社会問題にもなりました。

働き過ぎや勉強の詰め込み主義は、多くの人にストレスを発生させました。鬱病などが多発したので、週休二日制やゆとり教育を取り入れましたが、アジア各国との経済競争に負けだしたので、暗黙の内に企業も時間外労働を増やし、学校教育も再び詰め込み主義に戻り、日

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

本だけでなく世界的にストレス過剰社会になって寂しいことです。寂しいと言え、5月2日に『カラスのパンやさん』『だるまちゃん』シリーズなどで親しまれた絵本作家で児童文化研究家のかこさとし(加古里子)さんが、満92歳で亡くなられたことです。

1926年に福井県国高村で生まれ、本名は中島哲ですが加古里子はペンネームです。少年時代、飛行機乗りの軍人に憧れ、航空士官を志しましたが、近視が進み断念します。ともに軍人を目指した級友たちは皆、特攻機で死んでいきました。1948年に東京大工学部応用化学科を卒業後、昭和電工に入社。勤めの傍ら、焼け野原にバラックが並ぶ川崎市で、生活に苦しむ人々の医療や教育を支えるセツルメント運動に加わります。子どもも会活動に力を注いだのは、軍国少年だった自分のような過ちを犯さぬようにという悔恨があったからです。

子どもは自ら楽しみを生み出す力を持っている。大人が力を注ぐべきことは、子どもが興味を持った世界に一步ずつ入り、深いところまで行き着けるよう誘うことだと確信し、実践したのが、『かわ』『海』『地球』『宇宙』など一連の科学絵本でした。身近なことから未知の世界へと、気づかぬうちに理解が広がるよう伝え方に工夫を重ね、大胆な構図と微細に描き込まれた独特の図解は、構造や概念を視覚的に把握しやすく、子どもばかりか大人まで楽しめる絵本でした。

「これからの未来をおすすめ、もつとよい世界にするため、科学や学問を身につけ、ちがった意見をよく聞き、考えを深めて実行する賢い人にみんななつてほしいと願っています。そして、自分のくせや体力にあった、やり方や練習法を見つけて、自分で鍛えて、たくましく、しなやかな能力と、健やかな心をそなえた人になるよう努力してください」と加古さんは子供たちにメッセージを残しています。

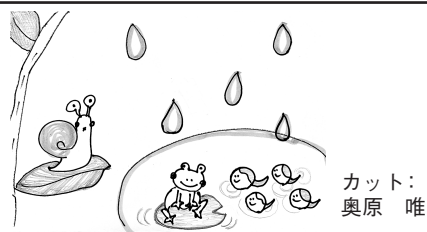
政治の世界やスポーツの世界でも、子供たちの未来を真剣に考えて偽りのない正々堂々とした人を育てるよう欲しいな。日本に生まれてきて良かったと思える社会をつくらうよ。合掌(奥原 曇龍)

『しなやかに健やかに生きよう子ども達 ちがった意見も考え深める』 どんりゅう

ともしび説法

日時・六月十二日「火曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
七月十一日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



カット：奥原 唯



お釈迦様ものがたり ⑳

二十九歳で出家し、家族と故郷を捨て釈迦族の王子の位を放棄したお釈迦様は、600キロも離れた南方のマガダ国の王舎城を目指して歩み始めます。

マガダ国は当時の最強の新興国で、王都の王舎城は文化創造の利器である鉄を新しい技術で容易に大量に生産しており、多くの人が集まってきたいました。王都は四方を五つの山に囲まれて、自然の要塞都市となり、絶対主権をもつ頻婆娑羅王が強大な権力を持って治めていたのです。

マガダ国は、お釈迦様と同じアリアン人でありながら、有色系の土民との混血が進んでいて、バラモン教の言う血の純潔から来る階級的差別観念が希薄な土地でした。かかる新興都市の雰囲気には、当然の傾向として、バラモン教の教義と因習を否定し、反バラモン主義の思想が盛んでした。

この国では、バラモン主義では解決しない政治的現象に対して、新しい革新運動が起こっていたのです。座禅瞑想をなし、哲学的思索をなして梵我一如の境地に努めたり、人生とは何かを深く究める人々がいました。人の生きる意味、死んでいく意味、人として永遠に安らかな心の境地を探究することが、自由に保証されていたマガダ国でした。

当時のインド最大の都市王舎城に君臨する王様である頻婆娑羅王と一人の修行者となつて行乞をする沙門のお釈迦様とがめぐり会います。頻婆娑羅王が高楼の上から下の道を見てみると、修行者が行乞をして歩いていますが、まっすぐ前を見て、目を下に向け、道路上にいる一匹の虫さえ踏み殺さないようにし、美しく、大きく、清らかに歩いている。王はこの人と話をしたいと、家来につけさせ、お釈迦様とお会いします。これが縁となり、お釈迦様がお悟りの後に仏教教団を優遇し大切にされる王様となつていきます。合掌(奥原曇龍)



春の永代経法要にて(4月15日)

ともしび法話

ジメジメとした日本の夏がやって来ました。皆様、お元気ででしょうか。

お寺の庭も草花々で大変です。それでも紫陽花の花が雨を喜び、きれいな花を咲かせてくれるのは、有り難いことです。畑にも夏野菜が育ち、収穫が楽しみです。

心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

曇龍先生、先日はともしびの3年分をまとめた『こころ澄ませば』の本を有り難うございました。お子様3人も立派になられお楽しみですね。私もこの所、天候不順で体調が悪かったですが、ともしびの本を戴き、飛び上がるほど元気ができました。

倉敷市新田 上中 康子

風薫る五月、先日はともしびのまとめた本を有り難うございました。私たち夫婦も高齢者となり病院通いが欠かせませんが、曇龍先生の「大丈夫、大丈夫」の言葉に励まされ、一日一日を大切に歩んでいます。

岡山市国富 津田 一郎

死ぬまでは悔いなく歩もう自分らしく

倉敷市西中新田 古谷 洋子

ともしび説法

日時・六月十二日「火曜日」 午後一時から午後四時頃まで。

七月十一日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。

場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて

電話・(086)420-1311 駐車場有り

(宗派をとわず、はじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定

八月二十四日(金)・午前十時から午後十二時・早高の本堂。

九月 五日(水)・午前十時から午後十二時・早高の本堂。

十月 四日(木)・午後一時から午後四時・早高の本堂。

☆『ともしび』を平成21〜23年、平成24〜26年、平成27〜29年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となって、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返ることが出来ます。まとめた本が欲しい方は実費でお分け致します。

こころの詩

梅雨がきたよ
窓の向こうに紫陽花の花が咲く
見られている事も気にせず
無言で七変化
目一杯に 自分らしく
もう二度とない人生のように
今年の花が ちからの限り咲く

カット:吉岡美枝



〒710-0022 倉敷市早高426

浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「341号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法が午後の日には茶屋町駅西口に12時30分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡を下さい。合掌 心光寺 総代長 三村 健

燕飛ぶ水田の向こうに心光寺 苦悩の闇路照らすともしび 田辺多恵子

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。